

I 地形・歴史 Topography & History

1 地形等

市の最北端にあたり、阿武隈高地東麓の斜面に位置する。夏井川が南部を東流している。

標高の違いから川前地区(平均海拔 280m)、桶売地区(平均海拔 480m～ 500m)、小白井地区(平均海拔 650m)の3方部で構成されている。

東は小川地区、南は三和地区、北西は田村郡小野町及び田村市、北は双葉郡川内村に隣接した農山村であり、また地形・道路網の状況等から、小白井地区は田村郡小野町及び田村市、桶売地区は田村郡小野町、川前地区は小川や平地区をそれぞれの生活経済圏域としている。

2 歴史

地区内には、夏井川、桶売川、鹿又川、小白井川等の流域に、旧石器時代後期(BC12000年)から縄文時代晩期(BC1000年)にかけての数多くの遺跡が発見されており、古くから、この地で人々が生活していたことが証明されている。

文明 15年(1484)岩城氏が大館に本拠を移し領国支配の体制を整えた時期、当地区も岩城氏の支配下に置かれたことが推察できる。文禄 4年(1595)岩城領検地目録によると楡葉郡小白井村 9石、桶売村 485石とある。

関ヶ原の戦いで、岩城氏は領地を没収され、地域は、磐城平藩主・鳥居氏の領地となった。貞享元年(1684)の磐城平藩領域図には、川前、下桶売、上桶売、小白井がある。延享 4年(1747)内藤氏転封により、川前、下桶売、上桶売、小白井は幕領小名浜の支配下となるが、その後上桶売村は寛政 2年(1790)新発田藩の分領になる。天保 7年(1836)川前、下桶売、上桶売、小白井の各村は棚倉藩の支配下に置かれ、明治維新を迎えた。

小白井村、上桶売村、下桶売村、川前村、上川内村、下川内村を、「楡葉山附六ヶ村」と称した所で、明治 22年 3月町村制実施と共に、小白井、上桶売、下桶売、川前が合併し、川前村と改称し、さらに同 29年 3月郡廃置分合により、楡葉郡が廃止されて川前村は石城郡に編入された。

(参考文献:「いわき市史」、「新しいいわきの歴史」)

※行政区域の変遷



【昭和 39 年(1964 年)当時の川前村民のくらし】

ラジオ	374 台	テレビ	308 台
新聞	620 部	電話	30 人
普通乗用自動車	7 台	川前乗降客	109,860 人(乗車)
小学生	607 人	中学生	337 人
※ 昭和 38 年(9 月 15 日現在) 世帯数 694 世帯、人口 3,636 人			

「川前村勢要覧(1964 年版)」より